

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

全国酪農青年女性会議 引頭副委員長に聞く！

嫁・婿が語る酪農の魅力／高橋悦子さん

管理部だより／消費税法改正に関する今後の動向

全国酪農青年女性会議 平成24年度研修会



酪農トピックス／2012年市勢功労者表彰(北福岡)ほか

日本酪農見て歩紀(岩手県滝沢村 下平牧場)

人事異動



2

2013 February No.569



全国酪農業協同組合連合会



■プロフィール

名前：引頭 玉枝 (44歳)
 役職：北海道酪農青年女性会議副委員長
 平成18年8月～平成24年7月
 北海道酪農青年女性会議委員長
 平成24年8月～1期目：1年目
 全国酪農青年女性会議副委員長
 平成24年8月～1期目：1年目
 北海道岩見沢市で経産牛59頭、哺育・育成
 41頭飼養

今回は、全国酪農青年女性
 会議 引頭副委員長にお話を
 伺いました。

就農の経緯

高校卒業後に地元で事務職として働いていたのですが、実家が水田農家であったため、地域の青年部会に毎日のように参加し、約100名の仲間とサークル活動などを行っていました。そこで酪農家である現在の主人と出会い、4年お付き合いをした後、23歳で結婚。付き合っている当時から作業のお手伝いもしていましたこともあって、酪農の仕事に対してもすんなり入ることができました。現在は搾乳と給餌を担当しています。

酪青女に関わるきっかけ

前役員の方から委員への推薦をいただいたのですが、とても悩みました。ちょうど子供も手が離れて一息ついた頃でしたが、「まさか私が」と戸惑いました。しかし、主人が後押しをしてくれて、やってみよう！と決意することができました。今となっては決意して良かったと思っています（笑）。地域の委員長としては今年からになりますが、他の委員さんも助けてくださり、とても心強いです。今の委員さんは、過去の発表大会で発表された方が多いので、自分は発表していないというコンプレックスも実は感じていたり…。30代の委員さんが増え、会議のときも活発な議論になるため、意見をまとめることの難しさも感じていますね（苦笑）。

発表大会に参加することで、
 明日から頑張れる活力を
 得ることが出来ます



前回大会での北海道会議参加者 集合写真



父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーンでの幼稚園訪問の様子

北海道会議の特徴は？

北海道だけではないのですが、父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーンでの幼稚園訪問ですね。道内はマスコミにPRする他団体も多いため、毎年いくつかの幼稚園を訪問しています。紙芝居を使って牛や酪農家の仕事について説明したり、牛の着ぐるみを着て牛乳の配布を行ったりと、子供たちに喜んでもらえるよう試行錯誤しながら活動しています。今年度は寸劇も考えているところなんです。

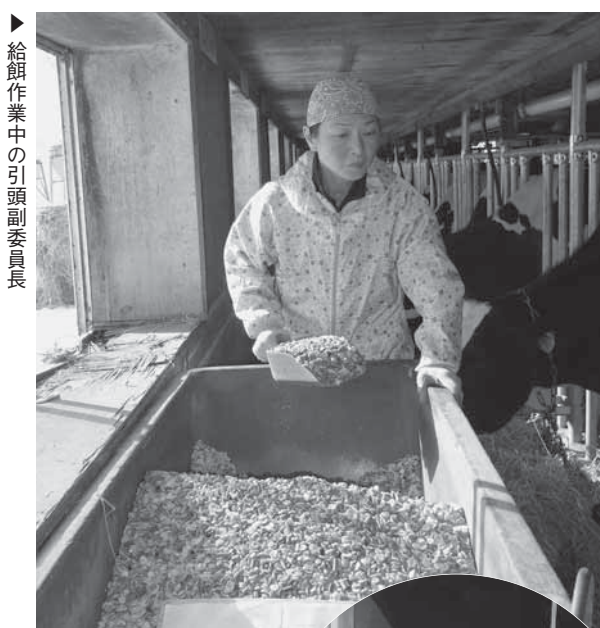
今年7月の全国大会に向けて

昨年は北海道会議が経営、意見・体験発表、こどもギャラリィ、フォトコンテ

ストの4冠を達成することができたので、今年も連続受賞を狙いたいですね（笑）。全国大会を常に盛大に開催できるように、頑張りたいと思います。

酪農家の女性の方へひとこと

研修会などになると、女性は家のこととあり外に出て行きたい方もいらっしゃると思います。でも、思い切って、一度全国大会に足を運んでもらいたい、もしそれが難しいなら地域大会に足を運んでもらいたいです。活気のある雰囲気心が躍り、仲間と話すことで明日から頑張れる活力を得ることができます。ヘルパーをとってでも、行けば元気がもらえるとあります。一度、足を運んでみませんか？



給餌作業中の引頭副委員長



引頭さんご夫婦 ▶

平成25年

各地域酪農青年女性(婦人)会議 及び 全国酪農青年女性酪農発表大会

発表大会	開催日	開催場所
第41回北海道酪農青年女性会議酪農経営発表大会	3/28(木)	札幌市中央区北5条西7丁目2-1 「京王プラザホテル札幌」
第42東北酪農青年婦人会議酪農発表大会	3/21(木)～22(金)	福島県福島市飯坂町湯野新湯6 「吉川屋」
第42回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会	3/26(火)～27(水)	茨城県北茨城市大津町722 「五浦観光ホテル別館大観荘」
第42回中部酪農青年女性酪農発表大会	3/19(火)～20(水)	静岡県浜松市西区錦山寺町3302 「錦山寺サゴロイロホテル」
第44回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会	4/25(木)～26(金)	岡山県倉敷市本町7-2 「倉敷アイビースクエア」
第42回九州酪農青年女性酪農発表大会	5/16(木)～17(金)	福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目18-25 「ホテル日航福岡」
第42回全国酪農青年女性酪農発表大会	7/11(木)～12(金)	熊本県熊本市上通町2-1 「ホテル日航熊本」

これからも家族みんなで 笑顔の絶えない毎日を 過ごしていきたい

2月の嫁

標茶町農協

たかはし えつこ
高橋 悦子さん

「嫁が語る酪農の魅力」第12弾として、標茶町農協の高橋 悦子さんにお話を伺いました。



嫁が語る
酪農の魅力

⑫

「ご主人との出会いから結婚までの経緯について教えてください。」

私達2人は標茶農業高校の卒業生で、主人が私の先輩でした。学生時代にお付き合いが始まり、卒業後はそれぞれの道を歩み始め、主人は実家の酪農を継ぐことになり、私は車会社のディーラーで勤務していました。

実家が酪農家だったので、幼い頃から両親の苦労を目の当たりにしてきたこともあってか、内心酪農家にはなりたくないと思っていました。しかし、

◀ 牧場の看板



牛舎

——主な仕事を教えてください。

実家が酪農家だったこともあり、作業はすんなり行うことができました。当初

主人は酪農家の息子。お付き合いはしていましたが当時結婚までは考えておらず、私は普通のサラリーマンと結婚するんだと思っていました。その後、まんまと主人の口車に乗せられ、3年間働いたディーラーの仕事も辞めて、昭和59年に結婚しました。結局、酪農家の嫁になってしまいました。結局、酪農家の嫁になってしまいましたが、これも何かの縁。今は主人についてきて良かったというのが本音です。

酪農に対する思いと苦労したことを教えてください。

は搾乳と哺乳を行い、現在はさらに育成牛舎全般的作業もこなしています。

実家が酪農家であったため、酪農へのイメージはどちらかというと良いものではありませんでした。しかし、主人に出会い、酪農家の嫁になってからはそのイメージもがらりと変わり、見えていなかった酪農の良さに気が付くことができました。

1番良かったのは、やはり家族がいっしょに一緒にいれることではないでしょ

高橋牧場の概要

住 所 北海道川上郡標茶町字上オソツベツ
釧路の北部に位置する

家族構成 ご主人の両親(登さん、トキ子さん)、
ご主人(一さん)と悦子さん、三男(大地さん)、
長女(明日香さん)、次女(遥香さん)
の7人家族

[結婚されて別居]

長男(優一さん)、次男(良さん)

長男(優一さん)夫婦が来年後継者として4代目になる予定。※主人(一さん)

が3代目に当たる。

経産牛 110頭

育成牛 70頭 計180頭

圃 場 110町、牧草地100町で主にチモシーを栽培。その他クローバー。

その他 草はコントラ、キザミサイレージ、自動給餌機を導入している。

平成15年度に規模拡大。新牛舎(100頭つなぎ)と新育成牛舎を設立。

うか。良くも悪くもいつも私のそばには主人がいます。四六時中顔を合わせてはたわいのない話をしています。そうやって毎日コミュニケーションをきちんととることができるとも酪農の魅力のひとつだと感じています。

就農当初は40頭牛舎でした。最初の約10年はちょうど牛が増えてきたこともあって、牛を移動させながら搾乳作業を行っていました。それがかなりの労力で、辛くもありました。それから規模拡大を行い、今の牛舎になってからは牛を移動させる手間もなく、また自動給餌機を導入したことで作業面の負担がかなり軽減されました。経営者の意思でやりたいようにできる点も酪農の魅力のひとつかと思えます。また会社勤務を経験していた分、上司に叱られることもあれば、使われる身なんだ

と感じたこともありましたが、今はそれがまったくありません。社長は経営者である主人ですし、一緒に力を合わせて経営を良くしていこうと思えることが何より良いことだと感じています。

辛いことといえば、やはり生き物相手であるということです。言葉を話せない牛たちの状態を把握することは難しく、苦勞することは山ほどあります。辛い時には趣味のガーデニングに走り、疲れた時には牛舎まわりに植えた花を見て癒されています。

— 今後の目標・夢はありますか —

来年には長男夫婦が帰ってくるので、様子を見ながらいよいよ世代交代を行う予定です。長男のお嫁さんはまったく酪農とは無縁であったため、最初は牛に近

づくことにさえ抵抗があったようです。ですが、一生懸命に私たちの手伝いをしようと努力してくれた甲斐もあってか、今では牛への抵抗もなくなり、農場に来るなりまっすぐに牛舎に向かっています。

夫婦での大きな目標としては、住宅を大きくしたいと考えています。なんたて3世帯4世代の大家族になるわけですから、落ち着いたら必ずこの夢を実現したいと思っています。また、今まで家族で旅行に行ったことがないため、今後家族揃ってどこかへ行きたいなとも思っています。

— 今後、酪農に携わりたいと考えておられる方々へ —

酪農の世界は厳しいです。ですが、それ以上に温かい家族の姿があります。家族が一丸となって業務に携われるため、自ずと目標も共有できますし、仕事も頑張ろうという気になります。また、今後新規就農を考えておられる方には、ぜひとも大自然の中で酪農を営んで頂きたいなと思います。都会にはない景色の中で、四季を感じながら作業するのも良いものですよ。

相手が生き物であるため辛いこともしばしばあります。命が絶つ瞬間を目の当たりにすることだってあります。ですがその逆もあり、新しい命の誕生に立ち会うことができます。毎年毎



牛舎内

年、子牛が生まれて、健康にすくすく育っていく光景は今でも一つの喜びです。それが成長して親牛になり、自分の手で搾乳を行うことができるのも酪農の魅力ではないでしょうか。

— 最後に、ご主人の「さんより悦子さんに一言お願いします。」 —

照れくさくて口にはできませんが、いつも家族のためにやりこなしてもらって本当に感謝しています。これからも健康第一で、一緒に充実した日々を過ごしていきたいと思います！

▶ 哺乳する悦子さん



作業中の大地さん

消費税法改正 に関する 今後の動向

ご存知の通り、消費税にまつわる内容が大きく変わろうとしています。今回はこの消費税法改正の動向について紹介いたします。

平成23年度の改正について

平成23年6月30日に消費税法の一部が改正公布されました。主な改正内容は以下のとおりです。

①事業者免税点制度の適用要件が見直されました。

当課税期間の前年の1月1日（法人の場合は前事業年度開始の日）から6か月間の課税売上高が1千万円を超えた場合、当課税期間においては課税事業者となります。なお、課税売上高に

代えて、給与等支払額の合計額により判定することもできます。

〔適用開始時期〕平成25年1月1日以後に開始する年又は事業年度から適用されます。

※6か月間の判定期間（「特定期間」といいます。）は平成24年1月1日から始まります。

②仕入税額控除制度における、いわゆる「95%ルール」の適用要件が見直されました。

当課税期間の課税売上高が5億円を超える場合には、個別対応方式又は一括比例配分方式のいずれかの方法により仕入控除税額の計算を行うこととされました。

〔適用開始時期〕平成24年4月1日以後に開始する課税期間から適用されます。

③還付申告書への「消費税の還付申告に関する明細書」の添付が義務化されました。

〔適用開始時期〕平成24年4月1日以後に提出する還付申告書から適用されます。

前述の中で、特に「95%ルール」の適用要件の見直しによって、これまで課税売上割合が95%以上であったことで課税仕入等に係る消費税額の全額を控除対象仕入税額としていた事業者でも、課税期間の課税売上高が5億円を超える事業者になると、この「95%ルール」が適用できなくなり、つまり当該事業者は、課税売上割合が100%でない限り全額控

除はできないということとなります。現実には、普通預金利息は非課税売上となるのでほとんどの事業者は課税売上割合が100%未満となり、控除対象外消費税額（仕入税額控除ができない仮払消費税等の額）が生じると考えられます。

額とする算出方式です。一概には言えませんが、各事業者では個別対応方式を適用した方が一括比例配分方式より納付税額が軽減されることも少なからずあるでしょう。しかしながら個別対応方式による場合は、課税仕入の厳密な区分実施のための事務コストの増加はもちろん、個々の取引の用途区分について、税務判断が要されることから、それらの区分誤りが懸念されます。

個別対応方式は、課税仕入をア、課税売上のために必要な課税仕入イ、非課税売上のために必要な課税仕入ウ、課税売上・非課税売上に共通して必要な課税仕入の三つに区分して、控除税額をアに係る消費税は全額控除、イに係る消費税は控除対象外、ウに係る消費税は課税売上割合を乗じた

また、一括比例配分方式を選択する場合は、2年間の継続適用が要件となりますので、方式の選択に当たっては各事業者が事務処理の実情も鑑みて、関与税理士等と十分に協議を行うことが大切です。

平成24年度の改正について

平成24年8月22日に、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律」（平成24年法律第68号）、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律」（同69号）が公布されました。

これにより、消費税率（地方消費税を含める）は、平成26年4月1日から8%、平成27年10月1日から10%へ引き上げられますが、今後適用日までに改正消費税についての政省令・関係通達の整備が行われるものと思われます。

課税売上割合の算定式

課税期間の課税売上高（税抜き）
「課税売上」+「免税売上」

課税期間の総売上高（税抜き）
「課税売上」+「免税売上」+「非課税売上」

〔個別対応方式〕 控除対象仕入税額＝アに係る消費税＋（ウに係る消費税×課税売上割合）

一括比例配分方式は、次の計算によって控除税額を算出する方式です。

〔一括比例配分方式〕 課税仕入に係る消費税の全額×課税売上割合

①新消費税率適用の原則

新消費税率は、原則前述の施行日以後に国内において事業者が行う資産の譲渡等及び課税仕入に係る消費税と同日以後に保稅地域から引き取られる課稅貨物に係る消費稅にそれぞれ適用されます。

②税率改正の経過措置

今回の税率の引上げに伴い、課稅資産の譲渡等に係る消費稅に関する経過措置などが設けられましたので、その主なものをここに挙げます。

(消費稅法改正法附則5)

- 旅客運賃等に関する経過措置
- 電氣料金等に関する経過措置
- 工事の請負等に関する経過措置
- 一定の役務の提供に関する経過措置
- 資産の貸付に関する経過措置

右に記した主な経過措置の詳細は現在のところ示されておりませんが、基本的には平成9年に消費税率が引き上げられた際に適用された内容とほぼ同様になるであろうとの見方となっています。

これらの旧経過措置の概要について、簡単ではありますが以下に記載します。

(1)旅客運賃等に関する経過措置

旅客運賃や観劇の入場料金を施行

	平成26年 4/1 施行	平成27年 10/1 施行
消費税率 (国)	5% (4.0%)	8% (6.3%)
(地方)	(1.0%)	(7.8%) (2.2%)

日(平成26年4月1日)前に領収した場合において、それらの使用が施行日以後に行われるときは、旧税率の適用となる。

(2)電氣料金等に関する経過措置

電氣・ガス・水道電氣通信役務等で施行日(平成26年4月1日)前から継続に行われるもので施行日から1ヶ月以内に料金の支払を受ける権利が確定するものは旧税率の適用となる。また、確定日が施行日から1ヶ月経過後であるものについても1ヶ月経過前までの相当額は旧税率の適用となる。

(3)工事の請負等に関する経過措置

平成8年10月1日から指定日(平成25年10月1日)の前日までに締結した工事又は製造の請負に係る契約に基づいて、施行日(平成26年4月1日)以後にその契約に係る課稅資産の譲渡が行われるときは、旧税率の適用となる。指定日以後に当該契約に係る対価の額が増額された場合は、その増額部分は経過措置の対象とはならない。

(4)一定の役務の提供に関する経過措置

平成8年10月1日から指定日(平成25年10月1日)の前日までに締結した一定の役務の提供に係る契約に基づいて、施行日(平成26年4月1日)以後に一定の要件を満たす契約に係る役務の提供が行われるときは、旧税率の適用となる。

★主に割賦販売法に基づき運営されている冠婚葬祭互助会による冠婚葬祭のための役務の提供がこれに当たると考えられます。

(5)資産の貸付に関する経過措置

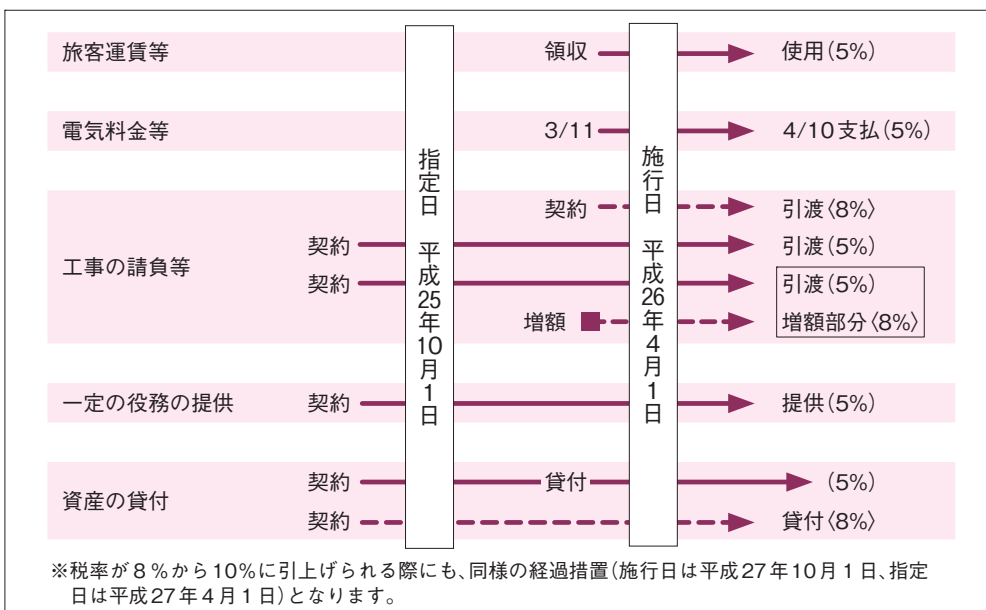
平成8年10月1日から指定日(平成25年10月1日)の前日までに締結した資産の貸付に係る契約に基づいて、施行日(平成26年4月1日)前から施行日以後に引き続き資産の貸付が一定の要件に該当する内容で行われるときは、旧税率の適用となる。

★平成20年4月以降、リース

取引の税制が改正され所有権移転外リース取引は資産の譲渡があつたものとなるため、前述の指定日には関係なく、リース資産の引渡し時の税率が適用され、一方、リース取引以外の通常の賃貸借契約と平成20年4月1日前に締結の所有権移転外リース取引契約で賃借処理をしているものが、この経過措置の適用対象になると考えられます。

本稿では過去の税率改正時の取扱いを参考にした概略の案内となっていますが、経過措置の詳細については、今後、政省令・関係通達で各項目について細かく適用要件等が示されることになるでしょうから、適用に当たってはこれらの要件を充足するかどうかの十分な確認が必要となります。

今回の消費税率引上げに



際しては、税制改革に伴う諸施策に関する措置として複数税率や給付付き税額控除の導入等の様々な方策の検討が規定されています。各事業者は、今後の政省令・関係通達の公布状況を注視し、関与税理士等への確認を行いながらその対応を講ずる必要があります。

1月17日(木)に全酪連本所相鉄田町ビル、18日(金)にチサンホテル浜松町において、全国酪農青年女性会議(大井幸男委員長)の平成24年度研修会が開催されました。この研修会は毎年1月に全国酪農青年女性会議役員・委員・顧問計19名を対象にテーマを決めて開催されているものです。

1日目には、「酪農後継者の育成と課題について」と題し、全国を代表する役員・委員の方々から率直な意見を伺い、後継者とのスムーズな継承を検討していただくことを目的としたグループディスカッションを、初の試みで開催しました。

まず始めに本会購買部酪農生産指導室 丹戸課長代理待遇より、ディスカッションの話題提供として、経営継承時期は25〜34歳が半数以上であること、親族からの譲

渡が9割を超えている実情や経営継承にあたっての理想と課題について説明していただきました。その後、班に分かれ、幼年・青年・成年・壮年の4つの時期に後継者(子)と移譲者(親)との間に起こる問題(ケンカ)を挙げていただき、4つの時期に分類していく作業を行いました。

さすが全国の委員の方々だけであり、各班からはケンカの具体例が次から次と出てきました。時にはケンカの内容について笑いが起こる班

もあり、各班とも活発な議論が行われました。各班の意見を集約すると、飼養管理・経営管理を任せられる青年・壮年時期でのケンカがやはり多く、日々のコミュニケーションの重要性を再認識していただくことができました。最後に丹戸課長代理待遇が「コミュニケーション不足から信頼関係が無くなり、関係が悪化する。経営ビジョン・意識を共有することが大切。」と締めくくり、討論会は終了しました。

2日目は東京大学大学院教授

鈴木 宣弘氏による「TPPの動向

と日本農業への影響について」と題した講演が行われました。TPP

交渉参加になると怖いのはもちろんですが、TPPの懸念で、「規模拡大したいがもうだめだ」と、

既に後ろ向きな思考になっている農家さんが多いことに言及されました。TPPにただ反対するのではなく、対案を出してほしいとの指摘もあることから、これを機

に、本当に効果が実感できる政策は何か、ということを地域全体で前向きに、積極的に議論して

ほしいとの話がありました。また、抗議活動について「日本はまだ甘い、徹底して活動しないとバ

もあり、各班とも活発な議論が行われました。各班の意見を集約すると、飼養管理・経営管理を任せられる青年・壮年時期でのケンカがやはり多く、日々のコミュニケーションの重要性を再認識していただくことができました。最後に丹戸課長代理待遇が「コミュニケーション不足から信頼関係が無くなり、関係が悪化する。経営ビジョン・意識を共有することが大切。」と締めくくり、討論会は終了しました。

2日目は東京大学大学院教授鈴木 宣弘氏による「TPPの動向と日本農業への影響について」と題した講演が行われました。TPP交渉参加になると怖いのはもちろんですが、TPPの懸念で、「規模拡大したいがもうだめだ」と、既に後ろ向きな思考になっている農家さんが多いことに言及されました。TPPにただ反対するのではなく、対案を出してほしいとの指摘もあることから、これを機に、本当に効果が実感できる政策は何か、ということを地域全体で前向きに、積極的に議論してほしいとの話がありました。また、抗議活動について「日本はまだ甘い、徹底して活動しないとバ

2日間わたる研修でしたが、どちらも酪農関係者にとって興味深いテーマであり、今後の活動の参考となる有意義な研修会となりました。



▲ 討論中



各班からの報告



鈴木 宣弘教授 ▶



▲ 講演の様子

福島県酪農協より

口蹄疫被害復興視察研修

東京電力福島第一原子力発電事故により被災した酪農家が、宮崎県口蹄疫被害から復興した酪農家の視察研修会を開催
また、いち早くご支援頂いた熊本県のホワイト酪農業協同組合へ表敬訪問し、支援の御礼へ

12月4日(火)から6日(木)にかけて、東京電力福島第一原子力発電事故により被災した休業中の組合員の方々が、2年前の宮崎県における口蹄疫被害から復興した酪農家の方々との交流会に参加されました。

初日の研修先の谷山牧場さんは、242例目の口蹄疫発生農家であり一旦は全頭処分しましたが、後継者が戻ってきたばかりで設備投資もした直後であったことから、迷い無くその年の11月に導入に踏み切り、現在では被害以前の頭数に戻ったとの説明を受けました。また、その後開かれた交流会の席では、口蹄疫発生時は宮崎ナンバーの車は差別を受け、県外に出られなかった等、福島県民が受けた風評被害に近い状況もあったとの話も伺いました。

被害の実態は違えど、壊滅的な被害を受け復興を遂げつつある宮崎県の方々と交流をすることで、参加した10名の組合員の方々も中々先の見えない状



◀ 口蹄疫発生から復興をはたした谷山牧場を視察

▶
ホワイト酪農協さんのご支援に福島県酪農協但野組合長が感謝の意を伝える



況にはありますが、希望は無くなったわけではないと気持ちを奮い立たせていました。

翌日は隣の熊本県に移り、本県被災時にいち早くご支援を頂いたホワイト酪農業協同組合さんを表敬訪問し、ホワイト酪農業協同組合さんのご支援に対し、但野組合長が感謝の意を伝えました。(W.H)

北福岡
工場発

2012年市勢功労者表彰

1月4日(金)の二戸市新年交賀会(二戸ロイヤルパレス)で、2012年市勢功労者として4団体2個人の表彰式がありました。

その4団体の中に全国酪農業協同組合連合会北福岡工場が『自治功労：市政功労者』として二戸市長より表彰されました。

表彰の理由は、市クリーン作戦(清掃活動)、地域の祭り等、地域イベントへの乳製品提供及び今年度で26回目となるミルク祭りの開催など、自社製品を活用した地域の振興に貢献されたとのこと。

今後も地域活性化の一助となるように協力していきたいと考えています。(H.T)



▲ 前列左から2番目 木元工場長



▲ 表彰状

本所発

(株)日本アクセス東日本2013春季展示商談会にて 本会が新商品を紹介

去る1月23日(水)～24日(木)、さいたまスーパーアリーナにて(株)日本アクセス東日本2013春季展示商談会が開催されました。今年のテーマは「新風～まだ、届けていない価値がある～」として、食品会社約450社が参加し、新商品を含む自社商品を小売店や仕入れ担当の方にPRする良い機会となりました。

会場は広すぎて回れないほどであり、どのブースも大変活気がありました。

本会も今年初めてブースを出展し、新商品『全酪脂肪分25%カットとろけるスライスチーズ』を含む乳製品をPRさせて頂きました。今後とも本会乳製品をよろしくお願いいたします。(K.S)

会場の様子



全酪連ブース ▶



今冬の新商品 ▶



映画「ひかりのおと」のご紹介

岡山県真庭市で農業を営む映画作家・山崎樹一郎監督が、若き酪農家青年の葛藤と未来へのささやかな希望を「土地からの視点」で描いた長編初監督作品。

その土地と人の営みを見つめる『地産地生』映画です。監督の地元・岡山県の酪農家や乳牛の協力も得て制作されています。

2011年10月から5か月にわたり岡山県内全域にてキャラバン巡回上映されていましたが、今年2月9日からは東京都渋谷区の「オーディトリウム渋谷」にて3週間限定で公開されます。

【お問い合わせ】

陽光プロジェクト info@hikarinooto.jp
映画公式サイト <http://hikarinooto.jp>



大阪
支所発

西日本酪農青年女性会議 第19回酪友フォーラム開催される

去る平成24年11月28日(水)に西日本酪農青年女性会議主催で恒例の酪友フォーラムが、皆生グランドホテル天水（鳥取県米子市）において開催されました。

当日は、管内会員酪農家及び関係者合わせて120余名が参加する盛況となりました。

開会に当たり、二若委員長の挨拶に続き、開催地元大山乳業農業協同会の幅田組合長より来賓挨拶を頂戴致しました。

今回の第1部講演会は、鳥取県農林総合研究所専技主幹の河田強氏を講師に迎え、演題を「とある酪農家で…」、副題を「農場コミュニケーションと経営を考える」として、牧場で普段交わされる家族の会話の中から問題点や経営のヒントを抽出し、大山乳業指導課の職員を俳優に、家族の会話（話題）を想定した場面を寸劇上演したことにより、演台での動きを伴って行われました。そのため、参加者が自然とその話題に引き込まれ、講演自体が全体的に緊張感のある講演となりました。

講師の河田専技が、会場の参加者に問いかけながら講演を進めるスタイルで行われました。

寸劇から「毎月の売上金額を現金で受け取る。まず何に使いますか？（選択肢：貯金、飼料代、光熱費、借入金返済、雇用者給料、子供の教育費等々）」、「今100万円の貯金があります。120万円の機械がほしい場合、あなたならどうしますか？」又「あなたの経営理念は、何ですか？」などの質問が投げかけられ、講師が参加者の席まで動きながらの逆質問形式でした。

▶カウ
イー
登場



第2部（事例報告）食育活動では、酪青女が行う牛乳乳製品の消費拡大運動に留まらず、注目されている食育活動について会



▲ 懇親会



▲ フォーラム委員長挨拶



◀ 講演寸劇



▲ 講演

員が行っている事例を発表し、活動の輪を広げていけたらとの思いで企画されました。まず始めに発表されたのは、蒜山酪農が中心となっている「蒜山イキイキ酪協議会」。行政をはじめ地元総合農協、観光連盟、市教育委員会等が一体となり蒜山地域の活性化を目的に組織され、観光牧場での酪農体験や小中学校へジャージー牛を持ち込み、文字通り活きた乳牛とのふれあい体験を通して食育実践を行っていることが紹介されました。次に発表されたのは大山乳業農協の「もーもーカウィークラブ」。酪農を取り巻く環境が厳しくなる中で酪農家が自分でできる事やしなければいけないことはないかを考えることで消費拡大活動に取組み、カウィーと名付けたキャラクターを創造し、小中学校・高校で料理講習会に始まり愉快地楽しく乳牛の事が学べる寸劇を行っている事が紹介されました。そして最後におかやま酪農協の「女性部活動」。地域住民を巻き込んだ料理講習会の開催やおかやま酪農が提供するラジオ番組を利用した牛乳乳製品を使った料理レシピの紹介等の内容が報告されました。例年ですと、発表内容をもとにディスカッションを行い、理解を深めて活動の参考とされていますが、今回は時間の都合もあり発表者への質疑応答で終了致しました。

懇親会では、大山乳業農協の小濱常務に来賓挨拶を頂戴し、会員が持ち寄った景品の抽選会などの余興で大変盛り上がり、会員相互の親睦を深めることができ、最後に今後の活躍を祈念して、盛会裏に閉会となりました。（S.T）



No.237

下平牧場

岩手県滝沢村

▲ 和孝さんと佳孝さん

仲間と共に酪農経営



牧場看板

地域の概況

今回取材させて頂いた下平牧場は、岩手県岩手郡滝沢村に位置しています。滝沢村は、盛岡市の北西部に位置し、東西約14km、南北約20km、総面積182.32km²あります。村の北西部には「南部富士」と呼ばれる秀峰岩手山をいただき、東に北上川、南に雫石川が流れ、気候は内陸性気候です。岩手山麓部から平坦部にかけて酪農、稲、野菜等を主体とした都市近郊型農業地帯となっています。

みちのく初夏の風物詩であるチャグチャグ馬コの発祥地であり、馬返し登



山口は岩手山の表玄関として知られています。この伝統行事は馬の守り神「お蒼前様」詣でを起源として、例年100頭ほどの艶やかな装束を纏った馬たちが、滝沢村の鬼越蒼前神社（旧駒形神社）から盛岡八幡宮までの約15kmを練り歩き、馬の装束に取り付けられた鈴が歩くたび「チャグチャグ」と鳴る音がこの行事の名前の由来と言われています。

また、人口（約5万4千人）が日本一多い村としても知られています。

今回訪問した下平牧場は、岩手中央酪農業協同組合（佐々木 勲代表理事組合長）に所属し、現在の酪農家戸数は153戸で、平成24年の年間生乳生産量は25,320tとなっています。

経営概況

現在の下平牧場の概況は、経産牛85頭、育成牛45頭、生乳生産量は



雪の岩手山

587.897kg(平成24年112月実績)、乳成分は乳脂肪率4.04%、無脂固形分8.48%(平成24年112月平均)となっています。

下平牧場の家族構成は、経営主の佳孝さん、父の和孝さん、母の良子さんと祖父の忠孝さんの4人家族です。

作業分担は、佳孝さんが育成の給餌と搾乳、和孝さんが育成等のぼろ出しと搾乳、良子さんが哺育と搾乳、従業員2名が給餌と搾乳を担当しています。旧牛舎には、乾乳間近の牛と乾乳牛を置き、作業は和孝さ

んと良子さんが担当しています。

耕地面積は、オーチャードとリード主体の牧草地が借地を含めて10町歩、デントコーン畑が9町歩あります。

牧場の沿革

昭和24年に祖父忠孝さんが、長野県からこの地に入植され、昭和32(33年頃)に乳牛を導入されたのが始まりです。その後、県の貸付牛を2頭導入し、その内の1頭が5産連続して雌を生み、それが下平牧場の基礎牛(ジェネラル系統)となっています。

平成元年に父和孝さんが滝沢村農協を退職し就農された頃は、搾乳牛20頭、育成牛20頭程になり、その頃から生まれた雌子牛は販売せずに全部残し、搾乳後継牛として確保してきました。

平成11年には搾乳牛が50頭程になったので、新しく牛舎を造ろうかと言うことになり、建築申請をされましたが、その頃岩手山が噴火するではないかという話が出て、実際に隣の雫石町では地震等があり、危ないと言うことで1年間延期する事になりました。

新牛舎の建設予定地の上を電線と電話線のケーブルが通っており、移設に時間がかかりましたが、平成12年3月に新しい牛舎がようやく完成しました。

佳孝さんは、高校卒業後専門学校

(農業系)に3年通われ、その後土壌改良材の会社に1年勤め故郷に戻られました。その後、岩手中央酪農協で酪農ヘルパーをしながら、3年間程家業を手伝っていました。新牛舎の新築に合わせ、酪農ヘルパーを退職し家業に専念するようになりました。

また、3年前に母の良子さんが体調を崩し、家族だけでは作業が厳しくなった時期がありました。家族内で酪農の規模縮小か維持か相談をしました。

結論は現状維持をする。為に従業員を1名雇うことになり、いまでは従業員2名を雇用し、昨年には自動給餌機を導入するなど作業の軽減や省力化にも努められてきました。

繁殖管理

管理の上で、特に意識しているのは繁殖管理との事です。発情の確認は、作業中の他に作業後とお昼、1日に4回〜5回確認をしております。発情があった牛については、母の良子さんに伝えられ、過去の授精記録



処理室

や治療経過などを確認し人工授精師を依頼します。未経産牛には和牛の種を、経産牛にはホルスタイン種を授精し初産牛の難産防止に努めています。種雄牛の選定には、後代検定種雄牛を積極的に活用し新しい血液を入れるなど乳牛改良にも取り組んでいます。後代検定種雄牛は成績公表前でリスクはありますが、最新の改良された種雄牛が授精できるのでリスク以上に効果があると思います。積極的に利用をしているとの事です。



牛舎内



牛舎全景

仲間との共同作業

コンパクトベールが主流だった平成3年頃に、牧草をロールベールにしようと3戸で立ち上げた「SYSトラクター組合」は、今年から1戸加わり4戸で、牧草37町歩、デントコーン23町歩の収穫作業を共同で行っています。組合で所有している機械はロールベラー2台、ジャン

ボレーキ1台で、その他の機械は4戸の個人所有となります。また、4戸以外にも数戸からデントコーンが2町歩、牧草はロールやラッピング作業でおよそ28町歩ほどの受託をしています。収穫期に作業が重なる事も多く受託先を優先し、最後に共同分を集中作業して多くの面積をこなすようにしています。また、天候等により収穫時期がずれたりし不公平とならないように、収穫物を面積で案分してリスクを分担していますと話され、とても仲の良い仲間だなと感じました。

おわりに

今後の目標について、佳孝さんは「所有している牧草地で、放射能の影響で使用してはいけないという場所はありませんが、牛の出荷がスムーズに出来なくて困っています。村の状況（滝沢村は岩手県に市制移行の申請を行った）等も大きく変化しそうなので、牛に負担をかけないで飼養することをモットーにして、その時々状況に合わせた経営をしていきたい。」と話され、震災の影響がまだまだ残っていることを強く感じました。

暮れのお忙しいところ、快く取材に応じて頂きました事に深く感謝致しますとともに、下平牧場の益々のご発展をお祈り申し上げます。

お詫び

全酪連 酪農セミナー 2013、 ワークショップ2013の 開催延期について

弊会「酪農セミナー 2013、ワークショップ2013」を2月12日～19日に開催を予定しておりましたが、今回の講師でありますマイク・ヴァンアンバーグ博士のご家族の急病によりまして、誠に申し訳ございませんが、急遽開催を延期させていただくことになりました。

新たな開催日程につきましては、平成25年5月14日～21日を予定しております。詳細が決定しだい改めてご案内を申し上げます。

皆様にはご迷惑をおかけしますこと、大変申し訳なく心よりお詫び申し上げます。

何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

新規就農 経営委譲

を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページから入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓
右下リンク

↓
新規就農情報 [社酪農ヘルパー全国協会]
新規就農情報 [全国農業会議所]

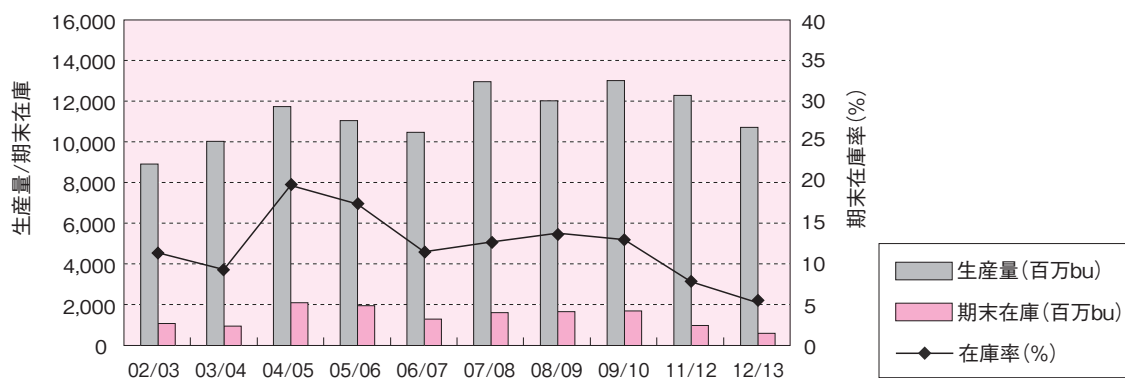


原料情勢

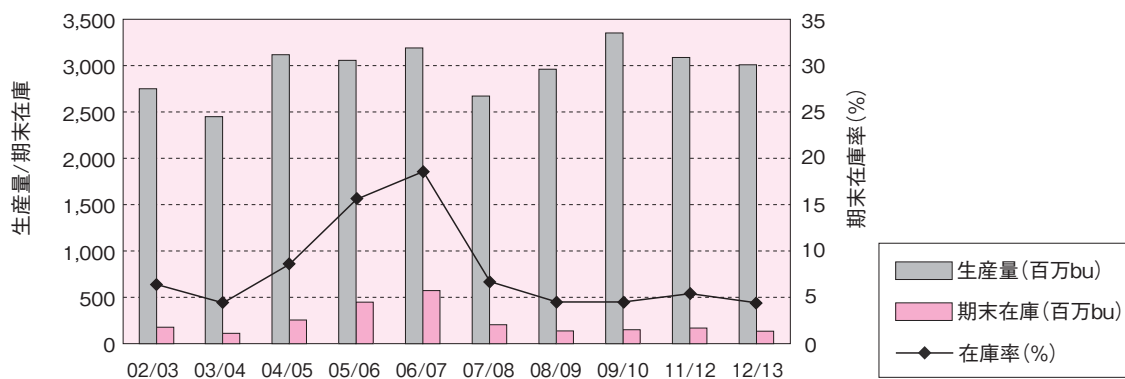
平成25年1月

1月11日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2 (147.2) bu/エーカー、生産量123億5,800万 (123億5,800万) bu、総需要量125億2,700万 (123億2,700万) bu、期末在庫9億8,800万 (9億8,800万) bu、在庫率7.9 (7.9) %。 【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月96.9百万) エーカー、単収123.4 (122.3) bu/エーカー、生産量107億8,000万 (107億2,500万) bu、総需要量112億6,700万 (111億6,700万) bu、期末在庫6億200万 (6億4,700万) bu、在庫率5.3 (5.8) %。
トウモロコシ相場動向	12月はブラジルの乾燥、アルゼンチンの多雨といった天候不安が解消されたこと、輸出需要が軟調なことを背景に値を下げ、12月後半から700¢を割ったものの、需要が供給を上回る増加を見せ在庫率が下方修正されると相場は急上昇し、現在は720¢を超える展開となっている。今後のシカゴ相場は、在庫率が低くなったことから、需要は端境期に向けてタイトになることが考えられ、強含みの展開が予想される。南米のブラジル、アルゼンチンではこれから収穫時期を迎え、これらの作物が相場にも大きな影響を与えるものと見られる。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは1億3,500万 (1億3,000万) bu、在庫率4.4 (4.3) %。在庫率は微増したがシカゴ大豆相場は大きく変動していない。国産大豆粕発生量は依然低調だが、需要も減退していると思われ、需給バランスはそれほど崩れてはいない。国産大豆粕価格は、南米の天候が大豆の作付け・生育に比較的適した状態を保っていたことから軟調に推移していたが、円安や輸入大豆粕が高値であることから強含んでいる。
槽糠類	フスマの発生量は大きな変動がないままであるため、需給は非常にタイト。今後も輸入品が順調に入船しても配合割合が維持されれば玉不足になる可能性があり、既に現時点で受け渡しに支障をきたす状況。グルテンフィードは発生量が増加する見込みだが、需要も堅調なため需給は若干締め気味。輸入は順調に推移しているため一部の港を除いては受け渡しに問題がないと思われる。しかし、輸入品が割高になりつつあり、今後の入船が減少する可能性があることや、フスマの代替で使用量が増える可能性もあり、注意が必要。
海上運賃	中国における石炭需要、春に申告時期を迎える南米での引合いが徐々に活発化しており、上昇に注意が必要。原油市場は中国の貿易収支が好調なことなど、景気の回復に合わせて強含みの展開となっている。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成25年1月

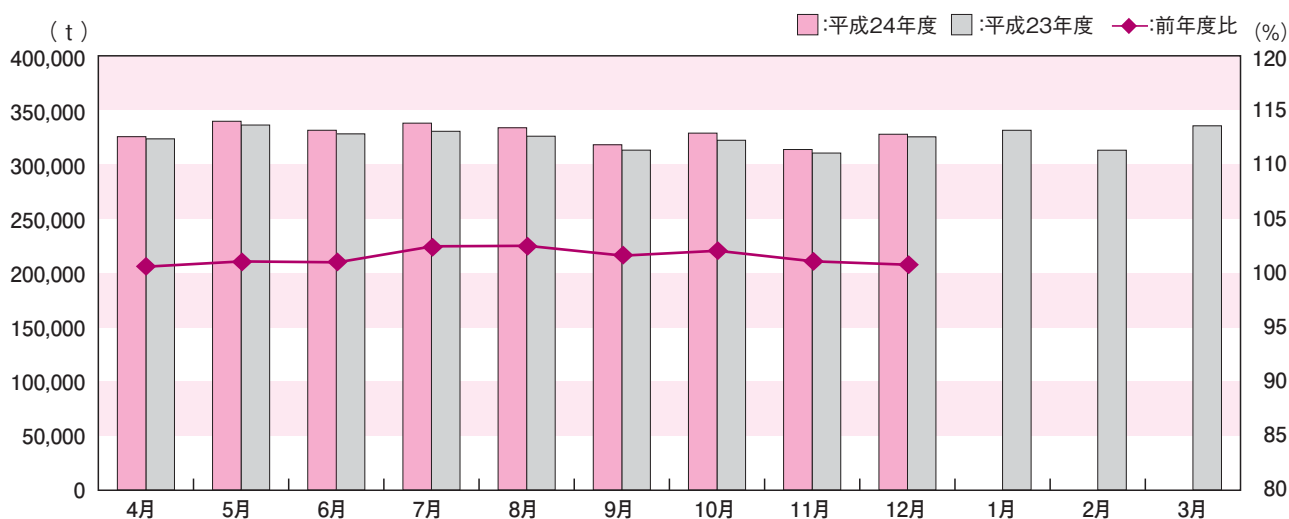
北米コンテナ船 フレート	先月号でのご案内した北米西海岸でのストライキによる船積み遅れは、12月中は混乱があったものの徐々に回復し、1月出航分については概ねスケジュール通りに船積みされる予定である。一方で北米東海岸でのストライキは再び回避され、今後は2月6日まで延期となっている。東海岸での協議次第ではコンジェスチョン・チャージ（混雑に対するチャージ）が検討される可能性もあり、注意が必要。WTSA加盟の船会社から1月15日付けでGRI（基礎レート）\$200値上げ実施の発表がされている。また1-3月のBAF（燃料費調整係数）も1月1日付けで\$33値上げが実施されており、海上運賃は引き続き強含みで推移することが予想されている。
外国為替	2010年10月からおよそ2年以上85円/ドルを超える円高が続いていたが、2012年11月の衆議院解散の前後から徐々に円安に動き始め、1月下旬より90円/ドル前後の値動きを見せている。2月以降は産地価格および海上運賃も上がる見込みであることから、牧草価格の値上げが続くことが予想されている。
ビートパルプ	【米国産】産地では製糖作業が順調に行われており、春先まで生産が続く予定。昨年11年産よりも作柄は良いため、生産量は例年並みに回復した模様。ただし11年産の繰越在庫がなく、欧州や日本からも引き合いが増えているため、引続き高値で推移することが予想されている。
アルファルファ ヘイ	【ワシントン産】コロンビアベーンでは、1番刈は60%、2番刈は50%の雨当たり被害を受けた。2番刈から3番刈にかけては、比較的ブリーチ（色あせ）の多いスタックが発生し、プレミアム品は少ない傾向となっている。産地価格の高止まりとフレート価格差から、中国向けについてはカリフォルニア産ヘシフトしていると伝えられていたが、徐々にワシントン産へ戻ってきているとも言われている。UAE向けについては、これまで通り安定した出荷が続いている。 【カリフォルニア産】インペリアルバレーでは、PNW産アルファルファの産地価格の高止まりとフレート価格差から、UAEや中国向けはカリフォルニア産の引き合いが強く、雨当たり品はUAE向けに多く出荷されているとも言われている。輸出向けと国内向けの底堅い需要を受けて、13年産は作付面積が増えることが一部では予想されている。北カリフォルニアでも、UAEや中国向けのみならず、日本や韓国からの引き合いも強まっている模様。
チモシー	【米国産】ワシントン州では、1番刈は50-60%程度が雨当たり被害を受けており、近年まれにみる厳しい状況。酪農向けの中間グレード品も馬用に向けられているため、酪農向けは中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況である。近年の順調な需要を受け、チモシーは生産コストに対して高く売れており、産地では儲かる農産物として定着しているため、13年産は作付面積が増えることが予想されている。 【カナダ産】産地のレスブリッジとドライランドでは、ともに1番刈の収穫時期に雨当たり被害が発生したためハイグレード品の発生量は限定的である。両産地とも、米国産1番刈の状況を受けて、中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況となっており、産地価格は高値で推移している。チモシーの他に、産地ではキャノーラ（菜種）などの穀類も多く作付けされている。13年産の作付面積の増減は穀類の相場価格によっても変化があると考えられている。
スーダン	【インペリアルバレー産】12年産は、早播きスーダングラスの作付面積の減少やスーダン種子価格の高騰から茎細のハイグレード品の発生量が限定的となった。中間グレードやローグレード品の発生量についても、降雨の影響で発生量が予想より大きく減少する結果となっている。そのため、かろうじて雨に当たっていないか軽く雨当たりしたスタックにも、グレードを問わず引き合いが集中している。激しい雨当たり品もUAE向けに多く出荷されている模様で、産地価格が下支えされる要因となっている。したがって産地価格については、激しい降雨があった7月よりも、同じ茎サイズ・色のグレードと比較してさらに高騰して推移している。近年の順調な需要を受け、産地では儲かる農産物として定着しており、13年産は早播きスーダンの作付面積が増えることが予想されている。
クレイングラス	1、2番刈は良品の発生が多かったが、3番刈は雨当たり被害や刈遅れ気味となったスタックも多く、4番刈についても湿度の高い気候が続いたため、ブリーチや茶葉が多めの傾向となっている。早くから11年産の在庫もなく、3番刈以降の作柄が良くない状況下で韓国向けからの引き合いも強くなっているため、産地価格は引き続き堅調に推移している。12年産のインペリアルバレーの作付面積は12/15時点で前年対比114%の16,354エーカーであり、近年の順調な需要を受けて、13年産は生産量が増えることが予想されている。
バミューダ	バミューダヘイ、バミューダストローともに、7月末の激しい降雨による雨当たり被害を受けた。国内向け・輸出向けともに強い需要が続くと予想されているため、今後の産地価格も弱含むことなく推移する見込み。また、中国遼寧省大連市で11月下旬に口蹄疫が発生した影響で、日本では中国産稲ワラが一時保留となっており、バミューダストローの引き合いがさらに強まる可能性もあるが、現時点で産地在庫は売切れ（成約済み）となっており、追加買付けは難しい模様。
ストロー類	フェスキューストロー、ライグラス（ペレニアル種）ストローはともに11年産の在庫がなく、自給飼料不足の影響で韓国からの引き合いも強くなっているため、12年産もストロー類は引き続きタイトに推移している。中国での口蹄疫の影響で、日本では中国産稲ワラが一時保留となっており、今後の動向次第では米国産ストロー類の引き合いがさらに強まる懸念される。
オーツヘイ	【西豪州産】10月上旬から収穫が始まり、初期の早刈りで雨当たり品もわずかに発生しているが、収穫時期の天候は良好であったため、雨当たり品が少なく、ほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均4.0t/haと例年よりも30%程度減少している。内陸部では単収が2.0t/ha未満と非常に少なく、収穫を諦めた圃場も多い模様。西豪州は作付面積が20%減少と言われる中で単収も少ないため、生産量は大きく減少していると見込まれている。 【南豪州産】西豪州同様、ほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均5.0t/haと例年よりも20～25%減少。作付面積はほとんど変わらないが、生産量は減少すると見込まれている。また、今年の特徴として、特に南豪州ではライグラスなどの雑草が混入しているスタックが散見される。例年より遅い播種だった影響で雑草除去にかかる時間が少なかったこと、単収が少ない圃場ほど雑草の生育を抑えることができずに多く残ってしまったことが原因と推測される。雑草混入が目立つスタックの多くは台湾や韓国など他国向けに出荷する予定のようだが、注意は必要。 【東豪州産】ヴィクトリア州でもほとんどがハイグレード品の作柄となっている。単収は平均4.5t/haであり、作付面積は昨年と変わらないものの生産量は減少すると見込まれている。品質については、分析値が良く過去25年で最も良い（良すぎる）作柄の年と産地では考えられている。収穫が遅い圃場で雨当たり品のローグレード品も発生しているが、国内からの引き合いも非常に強いと言われている。 【総合】どの産地もハイグレード品がほとんどで中間・ローグレードの発生量が少なく、雨当たり被害を酷く受けた11年産と真逆の作柄となった。産地価格については、①相場価格が高値で推移している小麦やキャノーラ（菜種）等との作付の競合、②北米の輸入牧草産地と同様にオーツヘイの買付け合戦が起きてしまっていること、③経済が安定しており通貨の豪州ドルが強いこと、④生産量が例年より少ないことから、12年産も昨年以上に高値でスタートしている。
豪州産小麦 （ウィート） ストロー	各産地とも12月上旬から、小麦ならびに小麦ストローの本格的な収穫が始まった。オーツヘイと同様に、生育中に少し干ばつ傾向の気候が続いたため、単収は非常に少ない作柄となりそうである。長さが求められる敷料用ストローは、発生がかなり限定的になると見込まれている。また、11月下旬に西豪州でまとまった降雨があり、今後どれほどの雨当たり品が発生するか注意が必要。中国での口蹄疫の影響で豪州産ストローについても問い合わせが多く寄せられている模様であり、単収・発生量が少ないことから産地価格は値上がりして高値でスタートすることが懸念されている。

平成24年度（12月）地域別生乳生産量

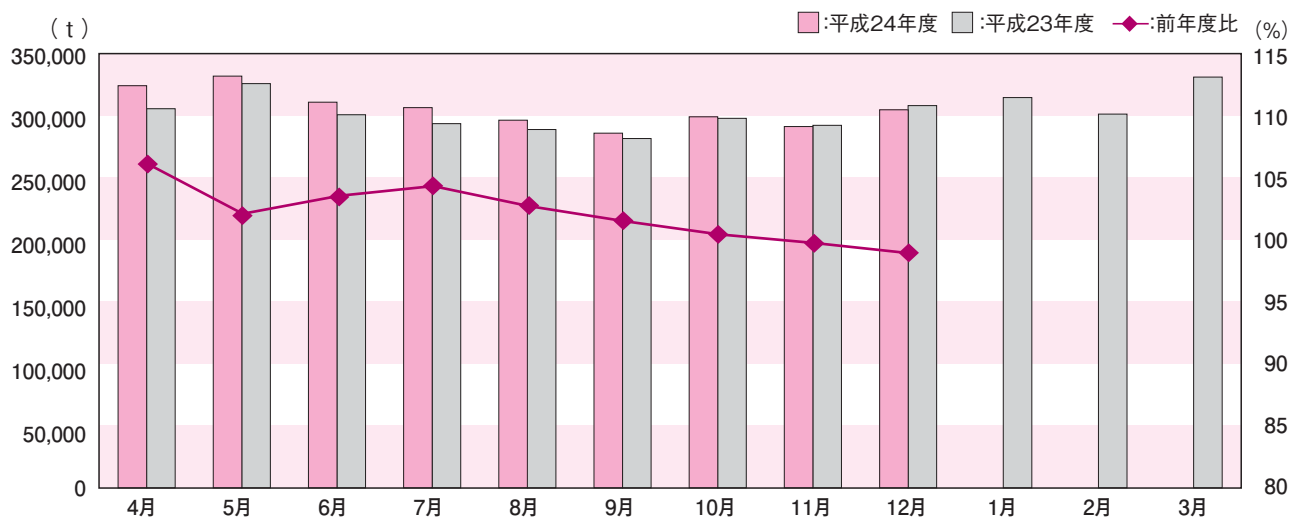
単位：t

	全 国	北海道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
23 年度 12 月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1 月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
2 月	614,082	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
3 月	666,347	335,386	54,152	9,249	97,760	11,542	36,017	18,526	27,139	12,421	61,632	2,523
24 年度 4 月	649,417	325,403	53,039	9,170	96,089	11,050	35,816	18,021	26,669	12,113	59,575	2,472
5 月	671,328	339,593	54,297	9,227	98,067	11,665	36,780	18,427	27,627	12,313	60,803	2,529
6 月	642,043	331,311	51,516	8,701	91,724	11,050	34,328	17,034	25,850	11,373	56,767	2,389
7 月	644,196	337,854	51,884	8,548	90,654	11,038	33,415	16,758	25,390	10,975	55,312	2,368
8 月	629,828	333,599	50,211	8,130	87,907	10,950	31,827	16,191	24,820	10,636	53,274	2,283
9 月	603,727	317,951	47,759	7,919	84,415	10,377	30,866	15,292	24,164	10,399	52,368	2,217
10 月	627,633	328,673	50,249	8,156	88,420	10,801	32,598	15,853	25,128	10,881	54,617	2,257
11 月	604,696	313,586	48,193	7,946	86,110	10,496	32,053	15,461	24,356	10,741	53,559	2,195
12 月	632,253	327,645	50,786	8,277	89,785	10,666	33,263	16,266	25,332	11,271	56,675	2,287
前年同月比	99.8%	100.7%	98.3%	97.2%	99.0%	94.6%	98.7%	95.5%	100.4%	96.9%	101.2%	102.7%
24 年度 累計	5,705,121	2,955,615	457,934	76,074	813,171	98,093	300,946	149,303	229,336	100,702	502,950	20,997
前年同月比	101.7%	101.4%	105.5%	100.2%	101.9%	97.6%	101.4%	99.1%	101.7%	98.4%	102.9%	102.2%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

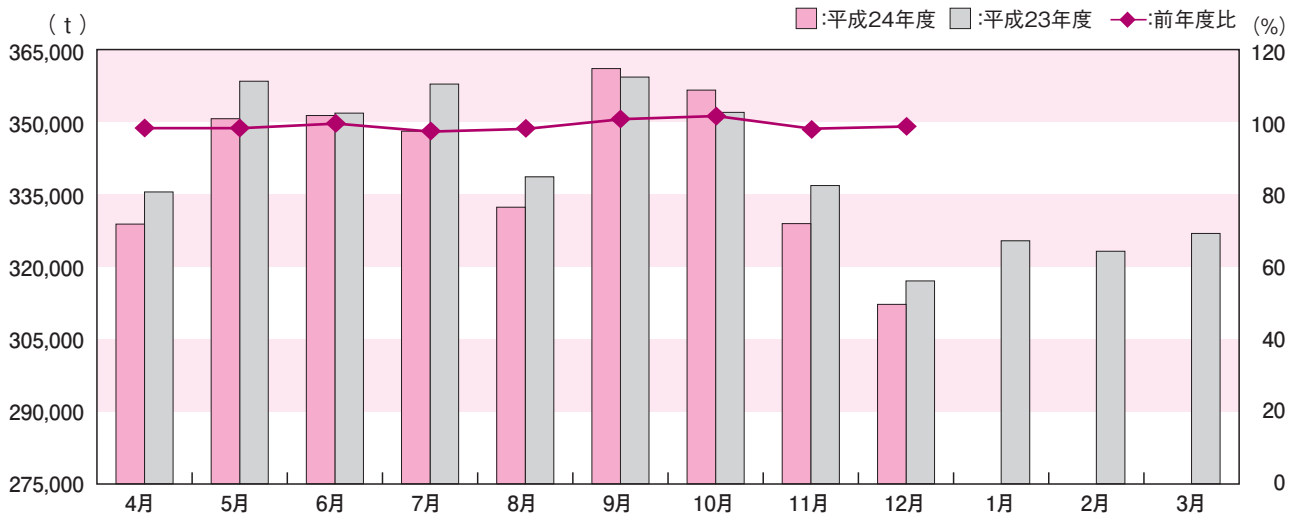


平成24年度（12月）用途別処理量

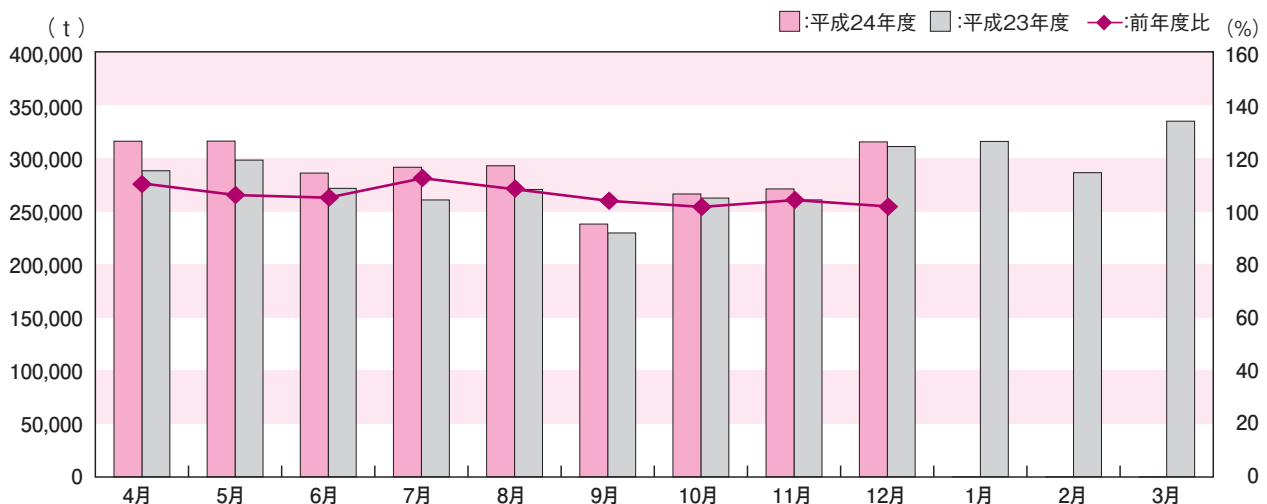
単位：t

	用 途 別 処 理 量							欠 減
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	
23 年度 12 月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957
1 月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002
2 月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961
3 月	666,347	326,874	28,301	334,591	48,467	109,346	4,882	1,038
24 年度 4 月	649,417	328,810	27,221	315,743	41,550	105,614	4,864	1,014
5 月	671,328	350,642	23,794	315,862	44,713	107,516	4,824	1,019
6 月	642,043	351,307	22,672	285,771	40,825	106,295	4,965	1,144
7 月	644,196	348,063	23,731	291,244	41,566	111,117	4,889	1,038
8 月	629,828	332,311	23,748	292,625	42,664	106,788	4,892	1,069
9 月	603,727	361,031	27,619	237,824	33,734	106,116	4,872	1,026
10 月	627,633	356,569	29,028	266,099	39,673	111,273	4,965	1,024
11 月	604,696	328,911	29,473	270,866	38,665	108,712	4,919	1,021
12 月	632,253	312,182	28,054	315,111	40,120	107,848	4,960	1,087
前年同月比	99.8%	98.5%	103.2%	101.4%	100.4%	98.2%	91.5%	113.6%
24 年度 累計	5,705,121	3,069,826	235,340	2,591,145	363,510	971,279	44,150	9,442
前年同月比	101.7%	98.8%	101.5%	105.7%	102.1%	103.1%	89.8%	99.0%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

人事異動

新	旧	氏 名
■平成25年2月1日付異動発令		
管理部 管理課長代理	大阪支所 購買畜産課長	丸 山 惣太郎
購買部 部長 兼 購買企画課長 兼 飼料製造課長	購買部 部長 兼 購買企画課長 兼 畜産課長	梅 岡 正 人
購買部 酪農技術研究所 所長代理	総務部付出向 (株)ゼフコ 所場課長代理待遇	柳 沢 光 浩
酪農部 乳食品課長	酪農部出向 関東生乳販売農業協同組合連合会 所場課長待遇	千 田 稔
品質保証室 室長	福岡支所 次長 兼 南九州事務所長	谷 口 隆 俊
札幌支所 次長 兼 道北事務所長	東京支所 次長 兼 指導組織課長	中 田 秀 明
札幌支所 購買推進課長 兼 釧路事務所長	札幌支所 道北事務所長	荒 木 泰 将
東京支所 支所長	東京支所 支所長 兼 総務課長	川 辺 昭 司
東京支所 次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長	購買部付出向 (株)日本ミルクプレイサー 次長待遇	坂 本 保
名古屋支所 支所長 兼 指導組織課長	名古屋支所 支所長 兼 指導組織課長 兼 購買畜産課長	関 和 次 男
大阪支所 支所長 兼 指導組織課長	大阪支所 支所長	大 森 一 幸
大阪支所 中四国事務所長	大阪支所 中四国事務所長 兼 三次駐在員事務所長	合 原 博 俊
大阪支所 業務課長	購買部付出向 全国酪農飼料(株) 鹿児島工場 副審査役	平 川 洋 文
福岡支所 次長 兼 畜産課長 兼 南九州事務所長	福岡支所 次長 兼 畜産課長	直 井 順 一
購買部付出向 全国酪農飼料(株)本社 所場長待遇	購買部 副部長 兼 飼料製造課長	都 倉 雅 弘
購買部付出向 全国酪農飼料(株) 釧路工場 所場課長待遇	購買部付出向 石巻飼料(株) 所場課長代理待遇	市 石 政 博
購買部付出向 全国酪農飼料(株)東海工場 所場課長待遇	大阪支所 業務課長	柳 孝 和
■平成25年2月1日付昇格発令		
購買部 畜産課長	購買部 畜産課長代理	田 中 晴 生
名古屋支所 購買畜産課長	名古屋支所 購買畜産課長代理	蒲 田 泰 介
大阪支所 次長 兼 酪農課長	大阪支所 酪農課長	大 木 高 明
大阪支所 購買畜産課長	大阪支所 購買畜産課長代理	河 野 巧
大阪支所 三次駐在員事務所長	大阪支所 三次駐在員事務所長代理	市 川 貴 英
福岡支所 次長	福岡支所 購買推進課長	工 藤 文 彦
福岡支所 購買推進課長	福岡支所 購買推進課長代理	伊 尾 陽
福岡支所 購買推進課長代理	福岡支所 購買推進課 副審査役	渡 邊 和 典
福岡支所 南九州事務所長代理	福岡支所 南九州事務所 副審査役	坂 本 敬太郎
鹿島飼料工場 製造課長	鹿島飼料工場 製造課長代理	高 橋 昭 一
鹿島飼料工場 総務課長代理	鹿島飼料工場 総務課 副審査役	中 嶋 仁
購買部付出向 全国酪農飼料(株)東海工場 所場長待遇	購買部付出向 全国酪農飼料(株)東海工場 次長待遇	安 田 稔 高

北海道 乳牛産地情報

平成25年2月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~35	▲	札幌管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で99.1%、累計で100.3%、苫小牧管内月計で95.8%、累計で98.5%の実績となっております。2月の初妊牛の価格動向ですが、引き合いの強い時期になりますので相場としてはやや強含みの相場になると思われます。育成牛につきましても、同様に夏季放牧に向けてやや強含みの相場展開になると思われます。いずれにしても引き合いの強い時期であり資源状況も大きく変化しますので、早めの情報交換をお願いします。
	初妊牛	52~55	▲	
	経産牛	40~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	→	根釧管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で100.5%、累計で101.2%、中標津管内月計で100.1%、累計で102.2%の実績となっております。2月の初妊牛の動向ですが、年が明けてから資源が少なくなり、特に釧路管内においては顕著に少なくなっております。十勝地域に比べ、育成農家も少なく酪農家からの資源に依存している中で、年明けからは組織も落ち蓄いて、搾りたいという酪農家の意識が強いため、余計に資源が減少しております。最近の導入で言えば、ギガファームの導入が強く、集中して大口購買をすることから、相場高騰に拍車をかけており、6月分までは高値安定で推移すると思われます。F1腹ホル選別腹の順で価格も形成されており、特にF1腹については、和牛受精卵腹に近い相場で動きそうです。
	初妊牛	55~58	▲	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	帯広管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は月計で100.0%、累計で101.0%となっております。2月の初妊牛動向につきまして、4~5月腹中心となります。昨年8月の残暑の影響で特に5月腹の資源が少ない状況です。それに加え、府県・道内での引き合いも強い為、価格は堅調に推移するものと思われます。F1腹、ホル選別腹は高値で取引されており、ホル腹の需要も高まってきている状況です。また、和牛受精卵腹につきましては、市場での和牛受精卵腹平均価格が約70万円まで上昇したことを受けて、庭先購買でも受精卵腹の価格高騰が予想されます。
	初妊牛	55~58	▲	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~35	▲	道北管内の1月中旬までの生乳生産量は稚内管内月計で102.5%、累計で101.8%、北見管内月計で102.3%、累計で102.2%の実績となっております。2月の初妊牛の動向については4~5月腹中心と成っておりますが、昨夏の受胎率低下の影響で4~6月腹の資源不足に加え、府県の引き合いが強い為、平均価格は強含みで推移しております。特にF1腹については一層高騰が予想され、ホル腹についても資源不足により高値で推移するものと思われます。
	初妊牛	53~58	▲	
	経産牛	40~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は月計100.5%、累計で101.5%と厳しい寒波の影響を受けて生産量の進捗は鈍化している状況です。2月の初妊牛動向は、4~5月腹中心ですが、3年前からの猛暑の影響で資源が不足しており、特に昨年の残暑は厳しかったことから5月腹は非常に少ない状況です。導入についてもギガファーム等が大口購買をしており、価格が高騰しております。F1腹と雌雄選別精液腹、和牛受精卵腹の価格が特に強い状況です。今のところホル腹の注文は少なく、F1腹との価格差は子牛価格以上に開いております。今後の資源状況により、ホル腹も高騰すると予想されますが、購買に際しては情報交換を早めにして、条件に幅を持つてのご注文をお願いします。
	初妊牛	53~58	▲	
	経産牛	40~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

いっぱいお乳出たね!

今月の表紙は、「第3回酪農いきいきフォトコンテスト」(第41回全国発表大会にて開催)に応募いただいた作品「いっぱいお乳出たね!」(熊本県青壮年部・女性部 撮影)です。搾乳体験ができたお子さんのなんと嬉しそうな顔!こんな笑顔が見られたら、搾乳体験を開催する苦労も報われる気がしますね。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼2013年という響きにまだ慣れませんが、はや1ヶ月が過ぎてしまいました。今年こそは、目標を持って行動するぞ!と誓ったあの元旦の日はもはや遠い思い出のように感じます。強い意志を持った人になりたいです。

▼ご意見・ご要望・応援等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです

編集後記



平成25年2月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 2月号 No.569

●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

さばくをふむうしさん

大泉東小学校(関甲信)2年 小倉健太郎



今月の入選作品は、大泉東小学校(関甲信)2年の小倉健太郎くんの「さばくをふむうしさん」です。

力強いタッチで描かれた牛さんと画面下のスピード感ある緑のストロークが印象的な作品。牛さんの顔の前に余白を作ることで画面に緊張感を出しています。題名は物語性があり、想像をかきたてる面白い作品になっています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議